



『東北圏だより』

仙台・東北の観光・物産・起業の拠点施設「東北ろっけんパーク」

仙台市経済局地域産業支援課

仙台市では、今年5月に、仙台・東北の観光・物産・起業を支援する拠点施設として「東北ろっけんパーク」を市内中心部のクリスロード商店街にオープンしました。このネーミングは、東北6県の復興を岩（Rock）のように固い結束のもと進めていくという思いを込めて付けられました。

この施設は民間ビルを借り受けたもので、1階では、毎週末の金・土・日に自治体または物産振興団体を通して応募した出店者が東北各地の特産品や地場産品を販売する復興物産市、平日には復興グッズの



▲1階 復興物産市



▲2階 チャレンジショップ

販売や観光PRなどを行っています。2階では、新規開業や被災などにより再起業を目指す個人・事業者を対象とする創業者支援のためのチャレンジショップとチャレンジボックス、3階では、新たなビジネスの創出や起業家の育成、マーケティングやデザイン活用による企業の販売促進支援を目的とした相談受け付けやアドバイス、各種セミナーの開催等を行っています。

これらの事業を通じて、中心部商店街の賑わいを創出するだけでなく、東北各地の観光PR、物産販売、起業支援などをあわせて展開することによりまして、東北全体の経済復興を応援していきたいと考えております。

たくさんの皆様に、東北の食・物産・観光の魅力を感じていただきたいと考えておりますので、機会がありましたら、是非足を運んでいただきたいと思っております。また、物産の出展や観光情報の提供についてご協力をお願いするとともに、1階フロアを活用した企画のご提案等がありましたら仙台市地域産業支援課（022-214-1001）までご一報ください。

ホームページはこちら <http://tohoku-rockenpark.com/>



▲東北ろっけんパークの外観

東日本大震災の教訓集について（その4）

5月号から連載でご紹介しておりました『東日本大震災教訓集』は「発災・初動対応期」「応急復旧・被災地応急対応期」「復興期」の3部で構成しており、最終回である今月号は「復興期」についてです。

内容は、①広域交通ネットワーク、②～④災害に強いまちづくり(1)(2)(3)、⑤災害への備え、⑥再生可能エネルギー、新エネルギー、⑦農林水産業、⑧ものづくり産業、⑨観光、⑩企業再建支援、雇用の維持・確保など、⑪自然環境・景観・生活環境、地域コミュニティ、⑫大規模災害時の災害廃棄物の効率的な処理です。

この中から、⑤災害への備えについて、一部ご紹介します。

⑤災害への備え

教訓 様々な被害への応急対応や広域的対応等、平時からの実践的な防災訓練、防災教育が必要

.....
教訓が得られた背景
.....

- 被災地では、大地震を想定した防災対策を進めていたが、今回の震災で十分に対応することができない面があった。
- 一方で、防災訓練や学校における津波防災教育など、平時からの防災への備えが有効に働いた事例も見られた。

被災直後、三陸縦貫道に避難してきた鶴住居小学校、釜石東中学校の生徒等570名が、孤立することなく、避難所（旧釜石第一中学校）まで移動することができた。

■津波襲来直前の避難の様子（岩手県釜石市）



出典：群馬大学片岡教授提供

ご紹介いたしました教訓集については、PDF版を推進室ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

第2回東北圏広域地方計画変更に関する有識者懇談会を開催しました

東北圏広域地方計画協議会では、東日本大震災の発生を受けて東北圏広域地方計画の変更を行うべく鋭意作業を進めており、6月15日（金）に第1回目を開催したのに続き、7月25日（水）、二日町東急ビル会議室において「第2回東北圏広域地方計画変更に関する有識者懇談会」を6名の委員の出席のもと開催いたしました。

まず、事務局より前回の有識者懇談会で各委員から出された「意見の論点整理」と「検証・点検結果により明らかになった12の課題」の関係について説明を行いました。



説明を受けた各委員からは

- ・原発事故については、やはり放射能汚染の防除、低減という言葉が妥当ではないか。放射能汚染をどう防御するかは、これまでの課題だけでなく、これからの課題でもある。
- ・「災害リスクを考慮した土地利用計画を推進する」というのは非常に重要なポイントだと思う。
- ・津波の検知技術や避難技術、情報伝達技術等は個人が研究対象として行っているが、やはり国として行う必要がある。
- ・新しい論点の中にある「危機管理の重要性」は非常に重要であり、マニュアルに無いことについても、訓練、想定をしておくことが必要であり、そうした記載も含めた方がいい。
- ・「様々な災害リスク」について東北の地域に潜在的にあるものを考慮したまちづくりが重要ではないか。
- ・復興は「元に戻る」でなく、「超えられる」チャンスである。将来の子供たち、孫が住みたいと思うような地域づくりをしていきたい。

等、様々な意見が出されました。

続けて、「復興後の柱」や「課題の優先順位」をどうするのかといった「計画変更のポイント」について議論を行い、各委員からは

- ・再生可能エネルギーを復興作業とするなどの産業復興が大きな一つのキーワードになるのではないか。
- ・一次産業の可能性を広域地方計画の中でうたって欲しい。
- ・東北は高齢化が進行している地域や、そうでない地域があるなど多様性に富んでおり、そういう多様性に富む東北では、多様性に富む一次産業が合っているのでは。
- ・産業の面では付加価値化が重要であり、生産、販売し、そこで消費してもらえれば売り上げが良くなり、観光にも結びついていくと思われる。
- ・平時、災害時の境目のレベルアップが必要であり、今まで災害時だったところを災害時でなく、通常時になるといった方向性で考えていくことがポイントになるのでは。

等、意見が出されました。

次回の有識者懇談会では、計画のポイント、柱立ての議論を深めていく予定としております。

編集後記

教訓集のご紹介も最後になりましたが、ぜひホームページでご覧頂ければと思います。第1回、第2回の有識者懇談会の詳細な内容についても、ホームページでご覧頂けます。

最後に暑い日が続いていますので、皆様、熱中症に気をつけて暑い夏を乗り切りましょう。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp